

	横浜市音楽研究会 研究部 器楽 部会記録				
日 時	令和4年 3月9日(水)				
部会名	研究部 器楽部会			主任	加藤 紫乃
参加数	8名	司会	加藤 紫乃	記録	上石 千鶴
研究 内 容	研究部テーマ				
	音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、協働的に学ぶ子どもの姿を目指して				
	器楽部会テーマ				
	楽曲の特徴や楽曲に合った音、音色 ^{おんしよく} をみつけ、音や音によるコミュニケーションを通して、自分の考えを広げ、豊かな表現を目指す器楽活動				
	○ミュージックセブン				
	提案 中丸小学校 青柳先生 のはずだった。				
	○研究のまとめと今後の課題				
	〈研究の視点〉				
	1 楽曲の特徴に気付き、楽曲に合った音、音色を見付け、それが思いや意図につながっていくための支援				
	2 音や音によるコミュニケーションを通して、自分の考えが上げられる支援				
	3 思いや意図に合った表現を目指していくための支援				
	〈主任より〉				
	・コロナ禍であったが、部員が参集して一緒に音楽を奏でることを大切に、研究を進めてきた。				
	・7月に延期になっていた全日本リコーダー教育研究大会の開催ができた。				
	〔成果〕				
	・子どもたちが、音や音楽、そして音楽の言葉を介して共有できるような授業展開を目指した。				
	・パートの役割を生かした演奏の仕方				
	〔課題〕				
	・「音の重なり」と「音楽の縦と横との関係」の理解				
	〈部員より〉				
	・音を出す前に「歌う」という活動がとてもよかった。コロナの影響で、長時間のリコーダー演奏が難しく、歌う活動をたくさん取り入れた。演奏のみではなく、歌う活動は基本となると思った。				
	・拡大楽譜（スコア譜）の扱い方について。				
	→ミュージックエイトの楽譜をよく使用しているが、子どもにはパート譜のみを配布している。				
	代わりに音楽の構造が分かるような表や図を提示している。				
	打楽器など、スコアがある方が分かりやすいパートもある。主旋律がある方が演奏しやすい。				
	・研究授業を通して、教材研究が深まった。客観的に見ることもできた。				
	・研究授業では、教師が思いや意図を大切にしていたことと、子どもたちが音楽をよく聴き合っていたのが印象的だった。				
	・子どもたちから発言を引き出すために、指導するところと子どもが思考するところを意識して授業してみた。				
	・鍵盤ハーモニカの代わりにアコーディオンを使用し、改めてアコーディオンのよさにも気付いた。				
	・コロナ禍で、電子楽器を使うことが多くなった。息を使う楽器のよさに改めて気付いた。				
	・3年生の木琴の導入で、鍵盤シートと菜箸を使って練習して、その後楽器を演奏すると上達が違う。積み重ねの大切さが分かった。系統性を研究するのもよいと感じた。				
	・今年度はコロナと少しうまくつきあえるようになってきた。マスクを外さなくてもできる楽器が活躍した。				

〈澁田先生より〉

- ・昨年度の研究成果をとらえ、今年度の研究につながったことは大きな成果である。
- ・器楽部会は、演奏を通しての研究が大切である。